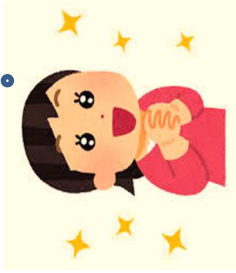


その頃 妻は機嫌が良かった 台所で野菜を刻むのも鼻
唄まじりである。「アంత 美容院まで乗せて行ってよ」
という回数が増えた 私が見たことがない服が
増えている。「オッ まだ買ったんかいな」と言つとマ
工から持っていた服よ ちょと派手かなと思つてた
けどケツコウ イケルわね」と鏡に映しながら悦に入つ
ている。

私には 何でこんなたのが分かっている。一か月程
前のこと「あのネエ これからワタシ忙しくなるかも知
れない」と言うから「この上 まだ何か始めるつもりか
いな」と聞き返した「それがネエ 今日阪急三番街を歩
いていたら 見るからに上品な女性に声を掛けられて
、そう五〇歳くらいの人よ「くエー それで？」貴女み
たいな方を探していたんですの ほんのアルバイトです
けどモデルに登録しませんかと言われたの「もちろん
断つたわよ こんなトシだもの」そしたらネ いまや六
十五歳以上の方が四分の一いる時代でしょ 老年向けの
ファッションショだけ盛んだし 雑誌だつてたくさ
ん出てるでしょ 奥さまなんがモデルに良いなと思いま
すのつて言われたの」

その日のうちに事務所に連れて行かれ
写真撮りをしたのだと言つ 幾日か
して その写真と契約書類が
送られて来た。



毎日見ている顔であるがシワもなければ眼も大きい。
輪郭も心なしが細いようで別人か?と思つたほどである。
電話も掛かつて来た「仕事が決まりそうですのよ 旅行
雑誌の話ですけど福岡まで行けますか?」とのことだつ
たらしい。

数日の後 朝刊を拡げると三面記事に「モデル登録詐
欺を摘発」と載っている これには笑つた いま思い出
しても笑いがこみ上げてくる。

後日 弁護士から「被害者の会」を作る旨の連絡があ
つたが 妻は「私は入会する気持ちはありません 良い
夢を見させて貰つたのですもの」と言つて断つた。

(文章表現を楽しむ科)